



彩の国福祉教育・ボランティア学習推進員ネットワーク

あったかウェルねっとニュース 第20号

2015年9月5日発行

ホームページアドレス <http://www.geocities.jp/attaka17/>

2011.3.11、東日本大震災により失われた多くの尊い命のご冥福を祈り続けるとともに、一日も早い被災地の復興・復旧を願い、被災された皆様の安心安全を心よりお祈り申し上げます。

あったかウェルねっとの「ウェル(WELL)」は、Welfare(福祉)、Well-Being(幸福)の Well(大切にという意味)で、「温かな心で一人ひとりを大切に思うつながり」でありたい、との願いが込められています。

あいさつ

始まりの道・タンポポの綿毛

あしたかウェルねっと副代表 木野登紀子
(毛呂山町・第2期 推進員)

小さな好奇心から踏み込んだ推進員研修と、志を共にできる仲間たちとの出会いから15年。視覚障害者として生きてきた私の人生の転換期は、ここにありと感謝の気持ちで振り返る15年。

この出会いが、多くの学びと勇気を与えてくれ、視覚障害当事者のふつうの主婦に自己信頼の回復と社会参加の大切さを教えてくれた。沢山の方々との出会いが無謀なまでの大きな夢の実現を後押ししてくれ、私の小さな思いがタンポポの綿毛のように、あちらこちらを自由に飛び回り、いろいろな所に花を咲かせてくれました。

これぞ福祉教育の基本理念が生み出した、共に生きる仲間達の種まきでした。

2015年、日本のかじ取りも不穏な方向に傾き、私達の日々の生活も不安なことが山積みです。でも、嘆いてばかりはいられず、気付いた人ができることがあります。どんな小さなことで

もチリも積もれば山となる。縁あり、ねっとで出会えた皆様、あしたかの仲間達とあしたかの気持ちで、地域で共に生きるための種まき。タンポポの綿毛になりませんか?

報告 ...主催事業

平成27年度総会が行われました

平成 27
年5月9日
(土)、彩の
国すこやか
プラザ研修
室にて平成



27年度総会を行いました。坪井相談役の開会あいさつに続き、埼玉県社協 地域福祉部主幹 熊井英朗氏の祝辞、原田正樹氏（日本福祉大学教授）、佐藤陽氏（十文字学園女子大学教授）より寄せられた応援メッセージが披露され、総会へと移りました。議長に佐藤静子氏、脇美智子氏が選出され、平成26年度事業報告・決算報告・運営担当、平成27年度事業計画案・予算案が満場一致で承認されました。

今年度も、県内のさまざまな地域で出会いの場や学びの場を設け、福祉教育・ボランティアに関心のある人たちと「共に生きる」「ふくし」の輪を広げていけるよう、ゆるやかに活動していきましょう。

総会後、同会場で参加者たちは地域や所属を超えて学び合い、自己研鑽を図りました。

あったかウェルねっと学習会 報告

学習会進行:牧野郁子氏(鶴ヶ島市社協)

【第一部】

講演会『福祉のこころ・福祉のまなざし

～福祉教育の視点から～』

講師:原田正樹氏(日本福祉大学教授)



福祉は制度だけでなく地域の関心を呼び起こすことが大事で、福祉教育・ボランティア学習の推進が重要になる。福祉動向を把握しながら、福祉教育の原点を再確認しあい、様々な立場での実践に役立ててほしい。

福祉教育の基本理念は、「ノーマライゼーション(共に生きる)」社会の構築にある。

そして、ノーマライゼーションの価値は、個人の尊厳を基礎に「仲間はずれ(排除)しない」社会関係の中で、「生活のしづらさのある人を、地域のみんなで支えあう」相互実現にある。

また、社会福祉における「自立」とは、ICFでいう自分ができることを主軸に、地域社会でお互いに支えあう「相互実現的自立」をいう。

「ふくし」は、「誰もが誰かの力になれる地域づくり」にあり、0歳から100歳過ぎまでの生涯にわたる「相互実現型」の支えあいで、それを「ケアリングコミュニティ(地域包括システム)」といい、ノーマライゼーション社会を具現化する。

それには、福祉教育・ボランティア学習を推進することが不可欠になる。

等々、「共に生きる力を育む」福祉教育の意義と必要性を学び合いました。

【第二部】

実践報告『学校は地域福祉の土壤』

報告者:向田正人氏(鶴ヶ島市立藤小学校 校長)

福祉教育は教科ではないが、人権尊重を基盤に、共に生きていくとする力や問題を解決する実践力を身につけるための教育。

◇学校を中心に地域福祉を学ぶ効果は大きい。

◇学習のポイントは…

①福祉教育を学校の教育計画にしっかりと位置づけている。

②総合的な学習の時間で学年ごとに意義をしっかりと捉えた教師たちが頑張っている。

◇地域の課題は高齢化が進んできたこと。

◇具体的な学習で、児童は地域との関わりから自分たちが地域の中で大切にされていることを自覚し意識が向上すると共に「他者を思いやる」「地域が好きになる」など、ふくしの心が育つ。

など事例から学び合いました。

【第三部】

円卓会議(参加型会議)『みんなでつくる ふくしの輪』

コーディネーター:原田正樹先生

センターメンバー:

中島満氏(車いす利用者) 東松山市

水出智津氏&盲導犬アニー(視覚障害者) さいたま市

田村祐介氏(社協職員) 志木市

須田正子氏(ボランティア) 坂戸市

サブメンバー:参加者全員



「福祉教育を推進して良かったことは?」との原田先生の問い合わせで円卓会議が始まりました。

◆日常生活が福祉教育。生活のしづらさがあっても自分ができることを伝えている。

◆小中学校で福祉を伝えているが、街で出会う子どもたちは自分が伝えたことを覚えていた。

◆福祉の時間は少なくなったが、出身地域の学校で福祉を伝え続けている。

◆共通マニュアルを作り、市内の全小中学校で福祉教育に取り組んでいる。

◆様々な人たちと共に活動し気づき合う、あったかウェルねっとでの学びが自分の福祉教育実践に繋がっている。

等々、活動をふり返りつつ全員参加で、活発に情報交換し合いました。

終わりに、原田先生より「地域に福祉の輪を広

げていく福祉教育実践では、誰もが誰かの役に立てる『相互実現』のことを忘れないで。』と参加者へのエールを頂きました。

(横田八枝子：坂戸市・第1期推進員)

まなびば しゃべりばカフェ 第6回

夏カフェ報告

おしゃべりしよう！ミニカフェで

～盲導犬と出会い、共に笑い共に泣き、生きる喜びも～

7月2日(木)、さいたま新都心駅近くのWith You さいたまセミナー室で夏カフェを開催。ゲストスピーカー櫻井よう子さん(さいたま市在住)は、盲導犬アンソニーとの出会いや前向きに社会復帰できた事、現在の2代目スカイはホワイトシェパードで盲導犬の犬種としては珍しく、体が大きく音に敏感なのが、櫻井さんの視覚・聴覚の障害特性に合っていること等、様々な関わりとともにユーモアたっぷりに話され、時間があっという間に過ぎました。

後半は5グループでワークショップ。メンバーが次々に入れ替わるワールドカフェ方式でおこないました。参加者みんなの暖かい心づかいが夏カフェを盛り上げました。(参加者38名)

（参加者の感想）

- ・シャッフルを繰り返すことで、限られた時間の中で沢山の方のお話を聞くことができた。
- ・自分にできる事、しなくてはならない事、色々と考えさせられました。
- ・まなびばしゃべりばカフェは、何でも話せるあつたかい場所だと感じました。

※秋カフェのお知らせが4ページにあります。

報 告…様々な所で

柏市で 心身障害者福祉連絡協議会研修会

山本美念子(草加市・第6期推進員)

須田正子(坂戸市・第3期推進員)

6月9日、7月14日の2日間、千葉県柏市中央公民館にて、柏市心身障害者福祉連絡協議

会主催の「障害理解の出前講座事業のプログラム開発講座」で講師をつとめました。

（参加者の感想）

- ・山本さんのお話しの中で、聴覚に障害があるとちょっととしたことの差し障りが沢山ある事や、周りの人がちょっと気が付けば防げることも沢山あるということを実感できた。
- ・お互いの障害をわかり合うことが大切。相手を理解することから始まる事を再確認した。
- ・障害理解のプログラムがよくできていた、わかりやすかった。(聴覚障害の特質がうまく伝えられていた。)
- ・講座の中の「一緒に作っていく」という言葉が今の私にはよくわかり、印象に残りました。
- ・見えない人、見える人、聞こえない人、聞こえる人、いろいろな人が一堂に会して同じものを学ぶ素晴らしさ。これを会の中だけでなく市民に広げていきたいです。こういう場面がもっとたくさんあつたらしい。

鶴ヶ島市で・坂戸市で 夏の福祉教育・ボランティア学習研修会

夏休み期間中に開催される福祉教育研修会で、それぞれの地域の推進員が活躍しています。

鶴ヶ島市社協では

実施日：8月18日

場所：鶴ヶ島市役所会議室

講師に、にいがた災害ボランティアネットワークの李 仁鉄氏をお迎えし、市内小中学校、ボランティア、障がい者施設の職員さんなど総勢60名近くが参加して、学校などで避難所運営ゲームをどう展開するか等、学び合いました。

坂戸市社協では

実施日：8月18日

場所：坂戸市入西地域交流センター

テーマは「次世代へ伝えよう！福祉のこころの第一歩」で、福祉教育実践報告・体験学習・ワークショップと盛り沢山の内容で、小中学校幼稚園教員、ボランティア、民生委員、施設職員、大学生など10代から高齢者まで70名以上が一堂に会し、学び合いました。

※お願い！みなさんの地域の情報を事務局へお寄せください。お待ちしています。

県社協からの情報

県社協では8月より孤立防止フォーラム＆サロン活動者とのためのレクリエーション研修会を県内各地で行っています。これは、誰もが孤立せず、住み慣れた地域でいきいきと暮らせる社会の実現のために、「共生・共助つながりづくり」をキーワードに開催しています。

また、今年で2回目となる小中学生作文コンクールも実施しており、小中学生が「人とのつながり・地域での支え合い」についての素直な気持ちを作文に表していただけるのをとても楽しみにしています。12月実施予定の共生・共助つながりづくりシンポジウムにおいて優秀作品の表彰も予定しております。(詳細が決まり次第本会HPにてご案内します)

この他にも、高校生向けのボランティア交流会や福祉教育推進セミナーなど福祉教育や地域福祉活動を推進していきます。

引き続き、推進員の皆様のご支援・ご協力をよろしくお願ひいたします。

孤立防止フォーラム＆サロン活動者とのための レクリエーション研修会 今後の開催予定

日高市	10/15(木)	宮代町	11/14(土)
さいたま市	10/20(火)	戸田市	11/18(水)
羽生市	10/21(水)	上里町	11/19(木)
草加市	10/27(火)	※詳しくは本会HPで	

★Facebook「シャキたまくん通信」にて本会の活動やイベント情報を掲載しておりますのでご覧ください。

ねっと事務局より

次回「秋カフェ」のお知らせ

第7回まなびばしゃべりば「秋カフェ」
みんなで考えよう！—福祉教育プログラム—

日時：平成27年9月20日(日)

午後1時30分～3時45分

場所：埼玉県男女共同参画推進センター

(With You さいたま) セミナー室

さいたま新都心駅から徒歩5分

参加費：100円 定員：30名(先着順)

話題提供者：山本美念子さん

(草加市・第6期推進員)

「聞こえる世界と聞こえない世界の橋渡し」

詳細はHPで！【あつたかウェルねっと】で検索！

<http://www.geocities.jp/attaka17/>

実践集の原稿を募集しています

15年目の足跡として、実践プログラム集の作成を予定しています。会員みなさまの実際のプログラムを募集します。(事務局・須田まで)

情報はメーリングリストで！

会員、賛助会員でメールアドレス(携帯も可)をお持ちのかたでメーリングリストの登録を希望する方は事務局までお知らせください。

ねっと事務局 須田 049-283-1865(FAX)

メールアドレス：masako@niconico39.net

会費振込先のお知らせ

活動は、ねっと会費(年1000円)で運営しています。みなさまのご協力をお願いします。

振込先：埼玉りそな銀行武藏浦和支店・

普通預金口座番号：5015782

名義：彩の国福祉教育ボランティア学習推進員ネットワーク

編集後記 第20号も県社協に情報を頂き発行することができました。15年目もみなさまの協力を頂きながら前向きに様々な活動を繋げていきたいと願っています。

発行：彩の国福祉教育・ボランティア学習推進員ネットワーク
(通称：あつたかウェルねっと)

編集：あつたかウェルねっと(情報担当)

連絡先：埼玉県社会福祉協議会 地域活動支援課

TEL：048-822-1435 FAX：048-822-1449

Mail：vc@fukushi-saitama.or.jp